三人娘とまま母

三人の娘いたのさ。母親死んだもんだがら、後妻あば貰って、そしてえだば、三人の娘どご、後妻あば殺しにかかたなや。父親がきょうおれ町さ行ってくるはでにって行ったうちに、

「一番姉娘こっちさ来い。この大きた釜さ水汲んで来え。

二番娘、薪持って来い。

三番娘、釜さ火たげ」

火たかしぇで湯沸がしたば、萩の橋こ渡して、

「一番娘、こご渡れ」

たば、

「おらおっかなくて渡らえね。それ渡れば釜さ落ぢで死ぬもの」

ってゆうたば、

「なっても落ぢね。落ぢればこのザルでザーと掬ってやるはで落ぢね」

姉娘おかなくて渡ったば、ザブーンと落ぢで死んでしまったて。

「二番娘こご渡れ」

「おれ姉さんみでに落ぢで死ねば大変だはで渡らね」

ってゆったば、

「んがどこな、いだましはで、てんで（全く）落どさね。落ちればザルで掬ってけるがら渡れ」

そえで二番娘渡ったけ、ブンと落ぢで死んだべ。

こった三番娘どご、

「三番娘さあ渡れ」

ってゆうたば、

「一番娘、二番娘みてに落ぢで死ねばおら怖ねはで渡らね」

ってゆうたば、

「一番娘、二番娘みてに落ぢで死ねばおら怖ねはで渡らね」

ってゆったば、

「んがどご一番いだまし、んがどごなんで殺そばや。落ちればザーと掬るはで渡れ、渡れ」

ダブンとこうしてその子どご渡らせで落どして死んでしまったて。

昔の百姓の家なば大きいもんだがら、一番娘どご小便所、二番娘どご馬屋の後、三番娘どご流しの下さ、こうして穴掘っていげだんだどや。

したけ父親来て、

「ことびらだ（子ども達）どさ行ったけな。ことびらだ、だれもえねねが、土産買ってきたでに」

ってゆった。

「ハー、てでどごむがえに行ぐって行ったで、行き会わねけが」

「なっても行き会わねがった」

おがしな、晩げになっても帰って来ね。おがしな、おがしなって思って、後の方さ行って、小便所さ行けば、カラス来て、

「きょうのてでこ恋しや

まま母恨めしや

萩の橋渡るどて

しゅうらん　だんぶらこ」

って言うカラスいるどやな。

「きょうのてでこ恋しや

まま母恨めしや

萩の橋渡るどて

はておがしな。また、前の方さ行っても、

しゅうらん　だんぶらこ」

またゆうはで、また流しの下さ行ってもまたそうして言うもんだがら、変だなァと思って、盛りあるもんだがら盛りこ掘っけしたば、一番娘も二番娘も三番娘も出はって来て、そえで実はあばにかって殺さえだど思って、こんだあばどごぼたしてやったど。